

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720209

研究課題名(和文)キリシタン版『羅葡日辞書』日本語訳の位相

研究課題名(英文)Phase of the Japanese Translation in "Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum"(1595)

研究代表者

岸本 恵実(KISHIMOTO, Emi)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：50324877

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：キリシタン版『羅葡日辞書』(1595刊)の日本語訳は、『日葡辞書』(1603-04刊)と比べると、臓器を表す語彙に見られるように訳語に違いがあり、また方言語彙など『日葡辞書』で使用が勧められていない語が含まれている。さらに漢字辞書『落葉集』(1598刊)も合わせて見ると、各辞書で語形が異なることがある。これらは当時の日本語の多様性ととも、各辞書がかなり個別に編纂されたことを示している。

通事用とみられる日葡対訳写本『南詞集解』では、方言を含むやくだけた日本語とピジン化されたポルトガル語が用いられており、キリシタン版とほぼ同じ時期・地域の成立ながら、さらに異なる言語様相を示している。

研究成果の概要(英文)：A number of differences are noted when the "Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum" (1595) is compared to the "Vocabulario da lingua de Iapam" (1603-04), both of which were compiled by the Jesuits in Japan. Specifically, certain words are defined differently, such as those related to the internal organs, and several dialect-specific words that the Vocabulario advises against using are used in the Dictionarium. When the Chinese character dictionary "Racuyoxu" (1598) is also considered, there are discrepancies among the three in the readings of several Japanese words. This provides evidence, not only of variation within Japanese, but also that the dictionaries were compiled separately.

Another Japanese-Portuguese dictionary, the "Nanshi-shukai", includes colloquial and dialectal Japanese and pidgin-Portuguese. Although this was apparently compiled in the same period and location as the above Jesuit dictionaries, it reflects a different phase of Japanese and Portuguese.

研究分野：日本語史

キーワード：キリシタン 辞書 語彙

## 1. 研究開始当初の背景

キリシタン版『羅葡日対訳辞書』(1595年刊、以下「ラポ日」)は、ラテン語辞書カレピヌスの1580年リヨン版などを基にしつつ、日本イエズス会によって独自にポルトガル語・日本語訳が付されたものである。研究代表者により本格的に始められていた、原典を参照しデータベースを利用したラポ日研究は、(1)(2)の分野で進展が目撃されていた。

### (1)日本語史分野

日本語史の分野において、ラポ日は同じキリシタン版の『日葡辞書』(1603-04年刊)に比べ研究が遅れており、日本語部分は原典やポルトガル語訳を参照せずに利用されることが多かった。さらに文体・方言・専門語などの位相面について、日葡については森田武(1993)『日葡辞書提要』(清文堂出版)によりその全貌がほぼ明らかになっているが、ラポ日についてはほとんど研究されてこなかった。

研究代表者はラポ日の翻訳方法について、原典カレピヌスの見出しをほぼ網羅的に取り出し、ラテン語語釈の主要部分をポルトガル語・日本語に抄訳していることを明らかにし、原典との対照により、宣教意識に基づく独自の日本語訳が行われていることや、原典を忠実に反映したわけではない方言・専門用語の使用が見られることを指摘していた。

### (2)宣教言語学分野

ラポ日は従来、ラテン語辞書史・ポルトガル語辞書史でも注目されてきたが、他のキリシタン資料とともに、宣教師たちの言語研究を通して言語の新たな一面を見出すことを目指す新しいMissionary Linguistics(宣教言語学)の分野においても、ヨーロッパの言語と現地語との対訳辞書の一つとして注目されている。

(1)で述べた成果の一部は、すでに研究代表者によりInternational Conference on Missionary Linguistics(宣教言語学国際学会)の第二回(2004年於サンパウロ)、第三回(2005年於香港・マカオ)、第五回(2008年於メリダ)、第六回(2010年於東京)、第七回(2012年ブレーメン)などで、国外に発信されていた。

## 2. 研究の目的

本研究ではラポ日の日本語訳を、原典カレピヌスおよび日葡などと比較検討し、文体・方言・専門語などの位相面からその特徴を明らかにする。

そして、ラポ日の中世・近世日本語資料としての有効な活用を目指すとともに、ラポ日の標題・序文・凡例に記されている辞書の目的やそれに沿った編纂方針が辞書本体でどのように実現されているか検証する。

また、日葡を初めとする他の辞書についても、ラポ日と比較することにより、編纂上の

関係や位相的特徴を明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究ではラポ日の日本語を、原典カレピヌスと対照させながら以下(1)(2)(3)(4)により調査し、位相面でどのような特徴がみられるか、又それがどのような要因に拠ると考えられるかを、日葡や他のキリシタン資料と比較しながら考察した。

### (1)方言・卑語

日葡において方言・卑語の注記のある日本語が、ラポ日においてどのようなラテン語見出し・語釈、およびポルトガル語訳に対して当てられているか調査する。国内の方言資料など、ラポ日・日葡以外にも適宜参照する。

### (2)口語的表現

ラポ日に見られる当時の口語的表現を、J.ロドリゲス『日本大文典』(1604-08年刊)などに基づき収集する。

### (3)専門用語

ラポ日の専門語、特に日葡において仏法語・教会用語の注記のある宗教用語、医学用語に絞って、知識層が用いたとみられる専門語の使用傾向を調査する。

### (4)語形などの優劣

ラポ日・日葡と、さらに『落葉集』(1598年刊)とでは、清濁などの語形に違いのある語が少なくない。また日葡で優劣注記のある語について、劣っているとされた語形・意味用法がラポ日・落葉集に採られている場合があり、その実態について調査する。

## 4. 研究成果

本研究では、キリシタン辞書の主要な3点であるラポ日・日葡・落葉集、および日葡対訳語彙集の写本『南詞集解』について、以下(1)(2)(3)を明らかにし、国内外で成果を発表した。

### (1)ラポ日について

#### 方言

ラポ日には、日葡において方言注記がされている語と、日葡に方言注記がないが九州方言語彙と思われる語が合計約30語含まれている。辞書全体を通じ類義語の中央語と混用されているものの、後半ではやや少なくなっている。

#### 宗教に関する訳語

ラポ日の日本語訳では、原典のラテン語辞書に含まれる西欧古代の神々を「仏神」「仏」を用いて訳したほか、神話世界の冥界を「地獄」と訳し、古代神話も仏教の世界もキリシタンにとって異教の概念であることを明示している。

### 医学・地理学に関する訳語

ラポ日と日葡とでは、ポルトガル語と日本語との訳語の対応が一致しない例が少なくない。また、同じ辞書内でも、訳語の不統一が見られる場合もある。元来ヨーロッパ解剖学の用語とは大きく異なる概念であった日本医学の「脾臓」「腎臓」「肝臓」は、二辞書でどのラテン語・ポルトガル語と対応させているかでゆれが見られたが、遅くとも江戸時代半ばには現代と同じ訳語が用いられるようになった。

「南蛮」の語も、ラポ日と日葡の中で「ヨーロッパ」を指したり「インド」を指したりと、用法のゆれが認められる。これらの訳語使用のゆれは、イエズス会における日本語研究の進展と、それに伴う訳語の変化・定着をうかがわせる。

### 日葡の優劣注記とのずれ

日葡において品位が劣る、あるいは一般的でないのみなされたため注記されたと考えられる語は、さかのぼるラポ日において、少数ではあるが用いられている。また、日葡において優劣があると注記された語のうち、劣っているとされた語が使われている例も散見する。

### ラテン語学習辞書

ラポ日はラテン語学習者・日本語学習者の両方を対象としており、ラテン語の意味や語形変化を知るには役に立つが、原典カレピヌスの豊富な用例を省いているため、書くための辞書としては不便である。

ポルトガル人宣教師がラテン語文書を作成する際、ヨーロッパでも適当な辞書がなかったため、マノエル・バレットは日本で他の資料をも駆使して葡羅辞書を編纂した。

### (2) 日葡について

(1)の で言及した、日葡において注記された特殊語・劣位語は、落葉集や『コンテンツスムンヂ』(1596年刊)など、ラポ日以外のキリシタン版においても用いられている例がある。

とくに落葉集の漢語について、連濁の有無や呉音・漢音の種類の違いなど、日葡辞書とよみが異なる語が少なくない。また、日葡辞書の優劣注記語のうち、劣っているとされた語形も採用されている。これらは二辞書の目的や対象者の違いのほか、典拠および編者の違いを反映していると考えられる。

### (3) 南詞集解について

日本語・ポルトガル語を含む辞書には、ラポ日と日葡のほか、写本の葡日辞書および南詞集解が現存する。南詞集解は日葡にやや遅れて成立したとみられる日本語ポルトガル語対訳辞書であるが、時期と言語の種類のほかはさまざまな点で異なっている。日葡辞書が外国人宣教師の日本語学習を目的とし組

織的に編纂・刊行されたのとは異なり、南詞集解は日本人南蛮通事のポルトガル語学習用とみられ、個人の覚書の性格が強い。

未整理・錯誤とみられる箇所が少ないが、南蛮通事の日常に近い言語状況のある程度写しているともみられ、日本語については長崎の話し言葉を含んでいること、ポルトガル語の面から見るとピジン化とみられる例があることが注目される。

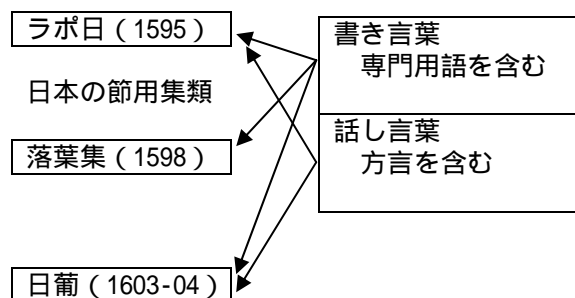
終わりに、成果の大略を図とともに記す。ほぼ同時期、同じ日本イエズス会によって作られたラポ日・日葡・落葉集の三辞書は、共通する日本語語彙を多く載録し、語形および意味用法も重なることが多いが、上に述べてきたような相違点も少なくない。これらは各辞書の目的の違い、すなわち、ラポ日はラテン語学習辞書であり、日本語はラテン語の影響が強いこと、落葉集は漢字学習に重点を置いた辞書であること、日葡は書き言葉だけでなく話し言葉も重視していること、などの特徴を反映した結果ともいえる。しかし、編者の違いをうかがわせる箇所が散見し、各辞書の編纂がかなり個別に行われたことが推測される。

キリシタン版として比較的早い時期に刊行されたラポ日の日本語訳には、書き言葉を基調としながらも、日葡ほど厳しい規範意識は見られず、九州地方のややくだけた日本語も入り込んでいる。日本人が作成したとみられる南詞集解では、イエズス会のような強い規範意識はなく、このような特徴が一層顕著である。

図 キリシタン辞書と当時の日本語の位相  
矢印は強い関係があることを表す

キリシタン辞書 当時の日本語の位相

原典カレピヌス



本研究により、ラポ日の日本語のいくつかの位相的特徴がはじめて明らかになり、キリシタン辞書ごとの相違がこれまで以上に深く解明されつつある。今後は辞書以外のキリシタン資料も視野に入れ、それぞれの資料の特徴をあらためて探ることが課題となろう。

さらに、世界規模で展開されている宣教言語学の潮流の中、16世紀末におけるイエズス

会の日本語研究について、日本で長年進められてきた先行研究の成果もふまえて発信することができた。また南詞集解は、これまで知られていなかったこの時期の日本語・ポルトガル語の言語接触を示す資料として、国内外の注目を集めた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

岸本 恵実、日葡辞書の優劣注記を通して見た羅葡日辞書の日本語訳、『国語国文』、査読なし、第84巻第5号、2015、pp.97-117

岸本 恵実、キリシタン版羅葡日辞書の方言語彙、『和漢語文研究』、査読なし、第10号、2012、pp.1-15

〔学会発表〕(計6件)

KISHIMOTO, Emi, Representation of the Pronunciation of Japanese Words in *Racuyoxu* (1598) and *Vocabulario da lingoa de Iapam* (1603-04), The 9<sup>th</sup> International Conference of ASIALEX, 2015年6月25日、香港(中国)

岸本 恵実、羅葡日辞書から日葡辞書へきりしたん版辞書にみるイエズス会の日本語語彙研究、天理きりしたんワークショップ、2014年10月12日、天理大学(奈良県・天理市)

KISHIMOTO, Emi, Examining *Nanshi-shukai*, the Manuscript of a Japanese-Portuguese Dictionary, to Clarify its Characters and Differences with the *Vocabulario da lingoa de Iapam*, 13th International Conference on the History of the Language Sciences, 2014年8月27日、ヴィラ・レアル(ポルトガル)

KISHIMOTO, Emi, Who Compiled Japanese-Portuguese/Portuguese-Japanese Dictionaries in the 16-17th Centuries in Japan?, The 19<sup>th</sup> Biennial Meeting of the Dictionary Society of North America, 2013年5月23日、アセンズ(アメリカ合衆国)

KISHIMOTO, Emi, How did the Jesuits Translate Ancient Roman Mythology into Japanese? The Intersection of Three Cultures in *Dictionary Latino Lusitanicum, ac Iaponicum*, Early Modern Japan in European Archives, 2012年9月29日、京都大学(京都府・京都市)

KISHIMOTO, Emi, Two Latin Dictionaries Compiled by the Jesuits in Japan: *Dictionary Latino Lusitanicum, ac*

*Iaponicum and Vocabulario Lusitanico Latino*, 6th International Conference on Historical Lexicography and Lexicology, 2012年7月26日、イエナ(ドイツ)

〔図書〕(計3件)

KISHIMOTO, Emi, etc. Verlag Dr. Kovač, *Whilom Worlds of Words Proceedings of the 6<sup>th</sup> International Conference on Historical Lexicography and Lexicology (Jena, 25-27 July 2012)*, 2014, pp.87-94

KISHIMOTO, Emi, etc. John Benjamins, *Missionary Linguistics V: Translation theories and practices*, 2014, pp.251-272

岸本 恵実 他、八木書店、キリシタンと出版、2013、pp.224-245

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

岸本 恵実 (KISHIMOTO, Emi)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：50324877